

第16回 ICA クアラルンプール大会への参加

▶ 第16回 ICA クアラルンプール大会 当館の取組み・総会報告

小原由美子
国立公文書館

1. ICA クアラルンプール大会に対する当館の取組み

ICA 大会 (International Congress on Archives) は、4年に1度、オリンピック・イヤーに開催されるアーカイブズ関係の最も大規模な国際会議である。第16回大会は、マレーシアのクアラルンプールで7月21日(月)から26日(土)まで開催され、約140カ国/地域、約1,200名が参加した。

アジアで開催される大会ということで、ICA 本部は EASTICA (東アジア)、SARBICA (東南アジア)、SWARBICA (南・西アジア)、PARBICA (太平洋) の各地域支部に働きかけ、積極的な参加を呼びかけた。当館では、2006年と2007年の2月にクアラルンプールで開催された2回の大会準備会合に役職員を派遣し、ICA 本部や他の地域支部代表との議論を通じて、ICA 副会長国として、また EASTICA 議長国として、どのような形で大会に貢献できるかを検討してきた。

国内においては、アーカイブズ関係機関協議会のメンバーその他の関係機関に相談しつつ計画を進めた。調整の結果、4年前の第15回ウィーン大会で初めてセッションを主催した経験を踏まえ、当館が中心となって3セッション1ワークショップを開催することになった。講師派遣・同時通訳者手配等の諸経費が平成20年度予算に盛り込まれ、11名の外部講師、11名の当館役職員、合計22名を当館からクアラルンプールに派遣することができた。国や地方公共団体の公文書館、大学等研究機関、民間企業、学会等幅広いアーカイブズ関係機関に講師の派遣を依頼し、アーカイブズの“オー

ル・ジャパン”体制でICA大会に参加できたことは、国内における関係機関の連携、国外への日本のアーカイブズに関する情報発信の両面で、画期的なことだったといえよう。

2. 当館主催セッション・ワークショップ等について

当館が主催したのは、「日本におけるアーカイブズの発展」「電子政府化の進展と電子記録管理」「危機とアーカイブズ」の3セッションと、資料修復に関するワークショップである。事前に英文ちらしを用意し、EASTICA 会員等にメールで送付したほか、現地の会場や EASTICA 展示ブースでも配布して、広報に努めた。また会場においては発表の概要や発表者のプロフィールを記したハンドアウトを作成し、参加者に配布した。

「電子政府化の進展と電子記録管理」(7月24日)は、同じテーマで昨年10月に東京で開催した第8回 EASTICA 総会及びセミナーの成果を受けて、中国・韓国からもスピーカーを迎えて EASTICA セッションとして企画したものだが、当初の予想を超える100名以上の参加者が詰めかけ立ち見の盛況となり、閉会式においてイアン・ウィルソン ICA 会長から「大会における大きな成果の1つ」と称えられる栄誉を得た。

「日本におけるアーカイブズの発展」(7月23日)「危機とアーカイブズ」(7月24日)の2つの日本のアーカイブズ事情を紹介したセッションについても、それぞれ当館関係者を除いて40 - 50名の参加者があり、海外の参加者から、これまであまり馴染みのなかった日本のアーカイブズについて知ることができ、たいへん興味深かった、との感想

が寄せられた。

また、増田勝彦昭和女子大学教授の講演と、当館の修復専門家を講師とした実習を組み合わせたワークショップ「日本における資料修復の技術」では、20名の定員を超える希望者があり、28名(全て外国人)までを実習者として受入れたほか、外国人14名が傍聴した。刷毛や和紙、糊、綴じ糸等の材料はすべて日本から別送し、裏打ち、四つ目綴じ等の日本の伝統的な修復を体験できるようなプログラムを工夫した。ほとんどの参加者が日本の修復技術を体験するのは初めてで、生き生きとした表情で実習に参加していた。

展示会場に設けられた EASTICA ブースでは、EASTICA 会員各国の公文書館の活動を紹介した。当館では、デジタルアーカイブ・アジア歴史資料センターのポスターパネル、「国際アーカイブズの日」ポスター及び記念講演会の写真パネルを展示したほか、当館紹介 DVD やリーフレット等の資料を配付して、広報に努めた。22日の開会式後には、マレーシア文化芸術遺産大臣が展示会場を訪れ、EASTICA ブースにも立ち寄られた。当館のほか、日本から(株)インフォコムが参加し展示を行った。また、富士ゼロックスマレーシアがブースを設け、コピーの無料サービスを提供した。

セッション、ワークショップ、展示とも、すべて予想を上回る盛況となり、日本のアーカイブズ活動に対する関心の高さがうかがわれた。各セッション・ワークショップの内容については、本特集号に発表原稿等が掲載されているので参照されたい。

3. 開会式その他のイベント

本大会は、クアラルンプール中心部のペトロナス・ツインタワーに隣接する国際会議場、クアラルンプール・コンベンションセンターを会場として開催された。全般に、観光に力を入れるマレーシア政府(文化芸術遺産省)の全面的なバックアップが感じられ、会場の一画にはマレーシアの伝統文化を学ぶコーナーも設けられた。

7月22日(火)の開会式には、マレーシア文化芸術遺産大臣等が列席し、ICA 設立60周年を記念して、大臣がゴングを6回打ち鳴らし、開会を宣言した。22日の午後から25日の午前中まで、「アーカイブズ、ガバナンス、発展 - 未来の社会を描く」を大会テーマとして、約200のセッションやワークショップが複数の会場で並行して開催された。

会期中の行事としては、国立公文書館や国立図書館、首相記念館の視察、記念晩餐会が行われたほか、各国国立公文書館長が前国王ご夫妻主催のハイ・ティー(お茶会)に招かれた。また、文化芸術遺産大臣夫人主催のレディーズナイトに女性の参加者のみが招かれ、夜中までダンスを楽しんだ。

大会会期中、初の試みとして、ICA の若い世代の会員有志がレポーター役(Flying Reporter)を務め、著名なアーキビストへのインタビューやセッション参加ルポ、スナップ写真等をホームページに掲載し、好評を得た。

4. ICA 年次総会

役員交代

7月25日(木)に開催された年次総会では、役員選挙・選考結果が改めて公表され、以下の新役員が決定し、翌26日の年次総会から新役員が議事を進行した。2005年から ICA 副会長として円卓会議を主宰してきた当館菊池館長の任期も終わり、選挙で選出されたケネパオランダ領アンティル国立公文書館長へと役職が引き継がれた。

(新任)

会長：イアン・ウィルソン カナダ国立図書館公文書館長

CITRA 担当副会長：ノルダ・ローマー・ケネパオランダ領アンティル国立公文書館長

プログラム担当副会長：ルイス・ベラード 米国国立公文書記録管理院顧問

大会担当副会長：ロス・ギブス 2012年大会ホスト国・オーストラリア国立公文書館長

専門職代表副会長：クリスティン・マルティネス
専門職団体セクション長・フランスアーキビスト協会会長

セクション代表副会長：ハンス・ナーエス 企業
アーカイブセクション長・ノルウェー国立公文書館

地域支部代表副会長：セタレキ・タレ PARBICA
議長・フィジー国立公文書館長

事務総長：デビッド・リーチ 元英国国立公文書館職員、前 ICA 事務次長

事務次長：ディディエ・グランジェ ジュネーブ
市立公文書館長、前 ICA 副会長

(留任・再任)

財政担当副会長：トマス・リッドマン スウェーデン国立公文書館長

マーケティング&プロモーション副会長：アブラ
ラ・エル・ライエス UAE 国立公文書館長

監査委員長：カレル・ヴェル ベルギー王立公文書館長

年次総会決定事項

今回の年次総会における主な決定事項は次の通り。

- ・ ICA 戦略的方針2008 - 2018について議論。意見を議事録に残し必要があれば今後改正していくことを条件に、本総会では提案どおりの形で採択された。(後掲)
- ・ スポーツアーカイブズ、公証記録に関する2つの暫定セクションの正セクションへの格上げを正式承認。
- ・ 2007年度会計監査報告、2009年度予算を承認。
- ・ 2009年度の分担金を決定。A 会員 (国・連邦公文書館) は昨年とほぼ同額。日本は2008年度と同額の60,000ユーロ。
- ・ B 会員 (専門団体、教育機関等) の分担金については、2009年から専門職団体セクションの提案に従って、団体の予算規模に応じ50, 100, 200, 350, 400ユーロの5段階に分けた分担金

が採用されることになった。国際団体 (ARMA International 等) については年額600ユーロ。

- ・ C 会員 (地方公文書館、企業アーカイブ等) については、予算規模に応じた75, 200, 250ユーロの3段階、地方公共団体公文書館については当該地方公共団体の人口等に応じた75, 250, 500, 750ユーロの4段階の分担金方式を併用することになった。

- ・ ICA への貢献を称え、当館菊池館長はじめ以下の4名がフェローとして表彰された。

菊池光興 前 ICA 副会長

ロレンツ・ミコレツキー 前 ICA 会長

シデク・ジャミル 前 ICA 副会長 (大会ホスト)

ジョアン・ヴァン・アルバダ 前 ICA 事務総長

- ・ 次回第17回 ICA 大会は、オーストラリア国立公文書館がホストとなり、2012年8月20~24日にブリスベンで開催される予定。次回大会 H P = <http://www.naa.gov.au/whats-on/ica-2012/index.aspx>

5. おわりに

2005年に当館菊池館長が ICA 副会長に就任して以来、当館では ICA の諸活動に積極的に参加し、世界のアーカイブズとの交流を深めてきた。今回の ICA クアラルンプール大会参加は、当館にとって、菊池館長の ICA 副会長職の任期を締めくくるものとして、館を挙げて取り組んできた事業であった。予想を超える参加者を得て、好評のうちに終えることができたのも、国内外でここ数年の間に築いてきたアーカイブズ関係機関との連携があったからこそ得られた結果だと思う。当館からの依頼に快く応じていただき、充実した講演や優れた司会をして下さった外部講師の皆様、心から御礼申し上げたい。

今回のセッションで司会を務めていただいた神奈川大学法学部教授の後藤仁先生は、委員を務めておられた「公文書等の適切な管理、保存及び利用

用に関する懇談会」において、「いつの日か日本で ICA 大会を開催するのが私の夢です」と発言されたことがある。先生の夢は日本のアーカイブズ関係者の夢でもある。今回の大会参加の経験を糧として、何時の日か、大会ホスト国となり世界中のアーキビストを日本に迎えることをめざしたい。

[参考資料]

2008年 ICA 年次総会資料 AGM2008 10
クアラルンプール、2008年 7月25 - 26日

ICA 戦略方針 (Strategic Direction) 2008 -
2018 (仮訳)

序章

本文書の目的は、ICA がなぜこの戦略方針を選択したのか、今後10年間に何を達成しようとしているのかを明確に示すことである。

国際公文書館会議 (ICA) は世界規模の非政府組織であり、190以上の国と地域に約1500の組織と個人の会員がいる。国立公文書館は、レコードマネジメントおよびアーカイブズの専門団体、その他のアーカイブズ機関や個人と共に、ICA において重要な役割を担っている。地域支部および異なる専門的関心に焦点を当てるセクションを組み合わせることによって、ICA はアーカイブズ部門における国際協力を可能にする組織的構造を発展させてきた。ICA は記録の永久的保存や一般へのアクセスを含む、記録とアーカイブズの効率的な管理が世界中で確実に行われることを目的とした国際機関である。ICA は、国際舞台におけるアーカイブズ機関と専門家の声の代弁者である。

私たちは政治的な分裂を乗り越えて専門的な討論の場を設け、世界中でアーカイブズを擁護して

いる。ICA は50年以上にわたり重要な出版物を幅広く発行してきたが、そのうちのほとんどは依然として現在もアーキビストの実務のための貴重な参考資料となっており、今後も活発な出版プログラムを継続していく。ICA はまた、アーカイブズの知的管理の主要な標準の開発に重要な役割を果たし、アーキビストが新しいオンライン情報ネットワークにおいて十分な役割を担うことを可能にしている。このような新しいツールと標準を開発することによって、単なる歴史的文書の管理者から、公共と民間の両部門において極めて重要で戦略的な地位を占める情報管理者へ、というアーキビストのパラダイムシフトに対する支援を行う。

この戦略方針は世界中の ICA 会員の活動を主導することを目的としている。本戦略方針に基づいて、一連の業務2ヶ年計画が策定される。第1次業務計画は2008年末までに作成、発表される予定である。業務計画ではさまざまな ICA の組織(支部、セクション、作業部会、事務局)が業務目標達成に向けて取り組むことになる。

1. 展望 (Vision)

ICA の活動を通じて、効果的な記録とアーカイブズの管理が、良好な統治、法の支配、行政の透明性、人類の集会的記憶の保存、および市民による情報アクセスのために不可欠な基本的前提条件であることについて、国内及び国際機関の主要な意思決定者、および世界中の一般市民の理解を得る。

2. 使命 (Mission)

ICA は、作成時点からのアーカイブズの効果的な管理、国家と社会の記録された記憶としてのアーカイブズの永久的保存、およびこの記憶に対する一般市民のアクセスを最大限可能にするために尽力することを通して、個人と国家の権利の保護、および民主主義と良好な統治の支援におけるレコードキープングとアーカイブズの中心的役割を推進する。言語や文化の多様性を尊重しつつ、

ICA は国際協力の推進を通じて、社会を超えたより良い理解を構築するよう努力する。

ICA は、アーカイブズと記録の管理の重要性を政策立案者に提唱する。そのために、政策立案者に専門家とのコンタクト、情報交換、調査と研究の機会を提供し、さらに世界中の記録およびアーカイブズの専門家を助けるベストプラクティスと標準の設定に主導的役割を果たしていく。ICA は社会にとって、アーカイブズとアーカイブズの専門家に関する中心的な情報源である。

3. 基本的諸価値 (Core Values)

ICA の使命を達成するために、ICA 会員は平等、多様性、情報へのアクセスの自由、公開性、国境および文化的伝統を超えた相互尊重、という諸価値を保持するように努める。ICA は会員のために可能な限り透明性を保ち、会員の ICA への貢献 (金銭的なものか否かに関わらず) に対して彼らに十分な対価を提供する。

4. 戦略目標/基本的活動 (Strategic Objectives /Core Activities)

現時点で、ICA が実行すべき重要事項は以下の通りである。

- ・ 国際的および国内の組織と共にレコードキーピングとアーカイブズのために効果的な擁護者として行動し、アーカイブズに対する一般市民の認知度を高める。
- ・ レコードマネジャーとアーキビストが新しい技術を習得し、その技術の導入と利用に対応するための努力に対して、さらなる援助を行う。
- ・ これまで頼ってきたボランティアの努力を補うものとして、プロダクトとサービスの開発のための新しい方法を追求する。
- ・ ICA のネットワークを再活性させ、ICA が世界的な存在感をもつ真に多様な文化的組織であり続けるようにする。
- ・ ICA 内の透明性とコミュニケーションを改善し、関連性と一貫性のある専門的なプログラム

を展開する。

- ・ 補助金や助成金など、さらなる外部資金調達の選択肢を探し、ICA のプロダクトの数とその開発頻度を向上させる。

以上を成し遂げるために、ICA は以下の6つの戦略的目標を設定する。

1. 認知度の向上

- ・ 主要な意思決定者に、アーカイブズは良好な統治、行政の透明性および民主的説明責任にとって重要であることを認識させる。
- ・ 行政と民間部門における情報管理資産としてのアーカイブズの戦略的重要性を強調する。
- ・ アーキビストが自身の所属する機関における主要な意思決定者に対して、効果的な情報とアーカイブズの管理の重要性を主張できるようなツールを提供する。
- ・ もしアーカイブズが保存されず、公開されない場合、社会は結果として集会的記憶の取り返しのつかない損失を被ることになることを、意思決定者とより多くの一般市民に認識してもらおうよう、世界中のアーキビストを援助する。
- ・ より多くの一般市民がアーカイブズに関する一般的知識を増すように促す。
- ・ 国内、地域、国際レベルで、アーカイブズの管理とより広い情報関連法制との間の関係を強化する。

2. 新技術の開発と利用の促進

- ・ 電子媒体で作成される大量の文書と記録を管理するという難題に取り組むアーキビストの努力を支援する。
- ・ 電子政府およびそれに類する改革プログラムの一部である行政手続について、アーキビストの影響力が向上するよう支援する。
- ・ 永続的な歴史価値のある電子記録の保存問題に対する解決策を促進する。
- ・ アーカイブズへのアクセスを向上させるため

- の新しい技術（「ボーンデジタル」記録および他の媒体で作成されたアーカイブズのデジタル複製物の両者を対象とする）を開発する。
- ・電子メディアに関連する新しい知的財産法の作成を支援し、できるだけ多くの人々がアーカイブズ資料にアクセスできるようにする。
3. 記録とアーカイブズの専門家の能力開発
- ・専門家の活動の主要部門（普及支援活動、レコードマネジメント、評価選別、資料保存、防災、アーカイブズ目録記述、アクセス、レファレンスサービス、アウトリーチ、教育）においてベストプラクティスと標準を開発し、促進する。
 - ・ワークショップ、講座、奨学金プログラム、オンライン資源の提供を通して、世界中の記録およびアーカイブズ専門家のための教育、研修、継続的専門能力開発を促進する。
 - ・会員の特定のニーズに合うように焦点をあてた、印刷物およびオンライン出版物を作成し、いつでも利用可能であるようにする。
4. ICA のネットワークの強化
- ・専門職の利益を高めるために国立のアーカイブズ機関が果たす重要な役割を認識し、支援する。
 - ・セクションおよび専門団体に働きかけ、彼らが ICA のガバナンスに関与し重視されるようにする。
 - ・より多くの機関と個人の会員を集めるために、会員キャンペーンを行う。
 - ・ネットワークを強化すべき地域において、イニシアチブを開始する。
 - ・最新の専門的発展および主要な世界的動向に焦点を当て、年次会議、4年に1度の大会を開催し、時間を置かず敏速に世界のアーカイバル・コミュニティに成果を報告する。
 - ・ICA のホームページが、幅広い分野のテーマについての会員間の意見交換と協力を容易にするツールとなるよう、改訂する。
5. ICA の業務実績と説明責任の向上
- ・インターネットへのアクセスが難しい、あるいは全くインターネット・アクセスが存在しない環境下にある会員が、情報を受取り、ICA に関わることができるような手段を講ずる。
 - ・ICA の機構内の正式な諸組織（地域支部、セクション、作業部会）間の直接コミュニケーションを促進させ、ICA 事務局が関与する必要性を減らす。
 - ・より非公式な方法で、短期あるいは長期の懸案事項を扱う ICA の特別部会の設置を促進する。
 - ・ICA の意思決定の手続が十分に文書化され、監査され、完全に透明性を保つよう保証する。
 - ・さまざまな運営組織の権限を明確にし、ICA 会員の取り組みを促進する。
 - ・業務計画の枠組みを導入しつつ、柔軟な対応ができる余地を確保する。
 - ・主な会員の特典として、ICA ホームページを通じたサービスをさらに向上させる。
6. パートナーシップの構築
- ・他の国際 NGO とさらなる共同イニシアチブを発展させる。
 - ・共通の目的を持つプロジェクトについての補助金を得るため、地域機構（例：欧州議会、ASEAN）とさらなる体系的な関係を構築する。
 - ・UNESCO との長期にわたる関係を再活性化しつつ、国連システム内の他の機関との関係を広げ、最高レベルでアーカイブズを目に見える存在にする。
 - ・開発機構と新しい関係を築く。
 - ・民間部門とより緊密な関係を深め、主な ICA プロダクトをすみやかに開発できるようにする。

- ・記録とアーカイブズを頻繁に使用する他の専門職の国際的ネットワークとの関係を確立する。

5. 業績及び結果 (Achievements and Outcomes)

ICA の成功のためには、以下の諸点を達成しなければならない。

- ・ ICA が主要な国際機関に影響を与え、国際機関のプログラムにおいて記録とアーカイブズの管理が現状に比べより一層重要な役割を占める。
- ・ 世界規模で助成団体や取引先からさらに多くの資金を確保する。
- ・ ICA が効果的で信頼する価値のあるパートナーとして広く認められる。
- ・ ICA がより多くのスポンサーを引きつける高品質のサービスとプロダクトを生み出す。
- ・ ICA の会員数が著しく増加し、会員調査が ICA のサービスに会員が満足していることを示す。
- ・ より多くの会員が CITRA、大会、その他の主要な ICA 行事に参加し、より多くの国々がこうした行事を主催する。
- ・ アーカイブズに関する貴重な情報を得るため、また専門的問題の共通関心事項に関して世界的に同僚たちと出会うためのサイトとして、さらに多くの会員が ICA のホームページを閲覧する。
- ・ より多くの一般の人々が、アーカイブズに関する基本的情報のために ICA のホームページやその他のサービスを利用する。
- ・ より多くの会員が、プロジェクトグループやその他の組織に参加することを通じて、ICA において活発に活動する。
- ・ ICA のすべてのレベルで世界の異なる文化がバランスよく代表される。特にアフリカ、ラテンアメリカ、アジアからの参加を増やす。
- ・ 10年未満の経験を持つさらに多くのアーキビストが ICA の会員となる。
- ・ アーカイブズとレコードの理論と実践の発展に、

ICA が主導的立場に立つことが認識される。

- ・ 世界中のアーカイブズ機関がより力を持ち、一般の人がその重要性を理解する程度を高める。

こうした多くの指標のためにまず、将来の改善点を評価する基盤となる2008年の活動の現時点のレベルの基準を設定する必要がある。正確に定量化できる結果を伴う目標の調整は、2ヶ年業務計画の重要な要素である。

6. 本戦略の見直し (Reviewing this Strategy)

ICA が依拠できる数少ない確実な根拠の1つは、10年後には世界は全く異なる様相を呈しているだろうということである。グローバル化と結びついた様々な風潮は、国際的なアーカイブズコミュニティに影響を与え続けるだろう。さらに、ICA が、時には緊急に対応せねばならない予測不可能な脅威や案件が起こりえる。それゆえ本戦略は、2年毎に見直される。この再検討は特に2ヶ年業務計画の実行など、ICA のプログラム活動の批判的評価を基礎として行われる。われわれはさらに将来の変化の予測に努める。ICA は会員から定期的に意見を求め、彼らの関心事に耳を傾ける。本戦略を将来修正するにあたり、我々は世界中の ICA 会員のさまざまな関心や文化を反映させ続けるであろう。